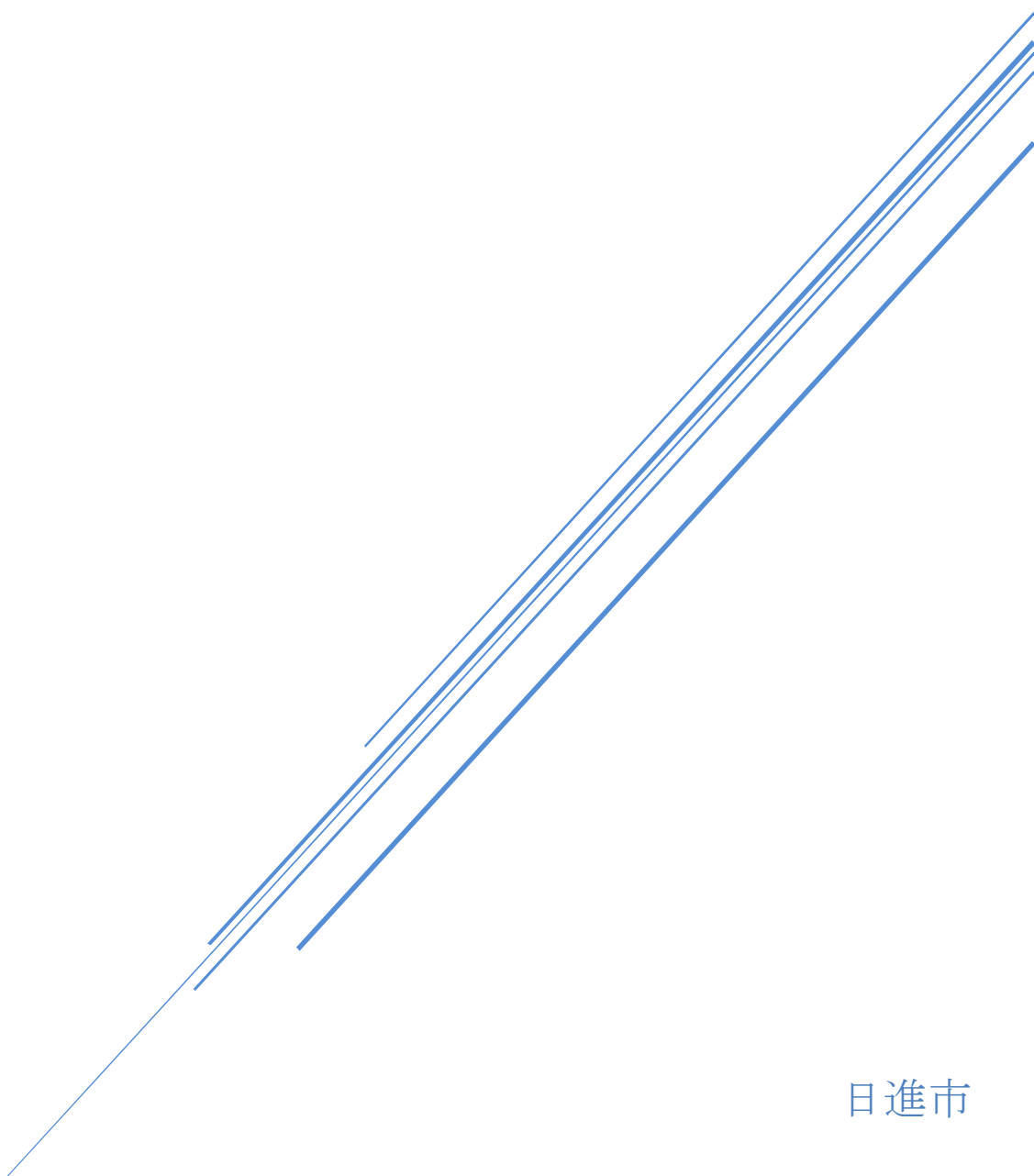


第4期日進市障害福祉計画アンケート調査報告

支援団体用アンケート報告



日進市

2014

内容

本報告書をご覧になる前に.....	3
1. 掲載している情報について	3
2. アンケートの実施期間	3
3. アンケートの回収率.....	3
4. 用語の定義	4
5. 現在の制度.....	6
報告1 団体の状況について.....	7
問1 お答えいただくのは、どなたですか。(○は1つだけ)	7
問2 貴団体が活動を始めてから何年程度ですか。(○は1つだけ)	7
問3 貴団体の構成員の規模は、次のどれですか。(○は1つだけ)	8
問4 貴団体の構成員の主な年齢層は、次のどれですか。(○は1つだけ)	8
問5 貴団体が主に活動している時間帯は、次のどれですか。(○は1つだけ)	10
報告2 障害のある人の支援について	11
問6 (事業所用 問4) あなたは、障害のある人が地域で生活するためには、どのような支援があればよいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)	11
問7 (事業所用 問5) あなたは、障害者の就労支援として、どのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)	12
報告3 団体の活動内容について.....	13
問8 貴団体が行っている活動支援は、次のどれですか。(あてはまるものすべてに○)	13
問9 貴団体の主な活動目的は何ですか。(○は2つまで)	14
問10 貴団体は、新規参加者を募集していますか。(○は1つだけ)	15
問11 【問10で、1. と回答された方にお聞きします。】 募集している場合、どの様な募集を行っていますか。(○は2つまで)	16
問12 団体の活動を継続していくための支援として、どの様な内容があるとよいと思いますか。(○は2つまで)	17
報告4 その他障害者福祉センターなどについて.....	19
問13 (事業所用 問12) あなたは、障害者福祉センター(地域生活支援センターたけのやま、子ども発達支援センターすくすく園)をご存知ですか。(○は1つだけ)	19
問14 (事業所用 問13) あなたは、障害者福祉センターでどの様な取り組みをするとよいと思いますか。(○は2つまで)	20
問15 (事業所用 問14) あなたは、障害者福祉センターの勉強会や講座などにおいて、	

どの様な内容を開催するとよいと思いますか。(〇は2つまで)	21
問16 (事業所用 問15) あなたは、今後、既存事業を見直しする場合、障害のある人に対して、次に掲げる中でどの様な支援を充実した方がよいと思いますか。(〇は3つまで)	22

本報告書をご覧になる前に

1. 掲載している情報について

- 1) サービス利用者用（日進市にお住まいの障害福祉サービス利用者）
- 2) 一般用（日進市にお住まいの18歳以上のサービス利用者を除く障害者手帳所持者無作為800人と障害者手帳交付者・サービス利用者を除く18歳以上の無作為1000人）
- 3) 事業所用（市民利用がある障害福祉サービス事業所、市内および隣接する自治体に所在する障害福祉サービス事業所）
- 4) 支援団体用（市内で活動する当事者団体および障害福祉ボランティア団体、障害に関する市民活動団体）

以上4種類のアンケートを用意し2,736名を対象に、郵送調査法を用いて回答をお願いする方法でのアンケート結果です。調査対象と回収率の詳細は以下のとおりです。

2. アンケートの実施期間

平成26年4月4日から発送し、平成26年4月30日までの回収としました。

3. アンケートの回収率

調査対象		発送件数	回収数	回収率
サービス利用者用	障害福祉サービス利用者	499件	236件	47.29%
一般用	18歳以上の障害者手帳所持者（サービス利用者除く）無作為800人	1800件	868件	48.22%
	18歳以上の市内に住所を有する人（障害者手帳交付者・サービス利用者除く）無作為1000人			
事業所用	障害福祉サービス事業所（市民利用あり、市内および隣接する自治体に所在）	413件	204件	49.39%
支援団体用	市内で活動する当事者団体および障害福祉ボランティア団体、障害に関する市民活動団体	24件	18件	75.00%
総数		2736件	1326件	48.46%

数値の見方は以下の点を参考にしてください。

- 1) 比率はすべて%で表記し、小数点以下第2位を四捨五入して算出しています。ただし利用意向率、利用必要率など、今後の計画において見込み量等を算出するためのものは小数点以下第三位以下を四捨五入しています。そのため%の合計が100%にならないこともあります。また、障害者手帳を2種類取得している市民もいるため、すべてが手帳ごとの回収数と割合が一致しないものもあります。
- 2) 表に使われている用語については、回答人数は「度数」として表示してあります。また、「システム欠損値」または「欠損値」は、回答が無記入または不明な回答の件数のことです。「割合」は、欠損値を含めた全体割合を示し、「有効割合」は、欠損値を除いた全体割合となります。「累積割合」は、有効割合を積み上げた数値となります。
- 3) 「総和の%」とは、全体の合計数値の中で、対象となる値の割合を示しています。
- 4) 回答率(%)は、その質問の回答者数を母数として算出しています。
- 5) 集計上の実数は、度数において有効または欠損値として掲載してあります。割合の比率はこの件数を100%として算出しているものとグラフにおいてわかりやすくするため除いてあるものもあります。
- 6) 本報告書の表の見出し及び文章中での回答選択肢の表現は、趣旨が変わらない程度に簡略化して掲載している場合があります。
また、自由記述は個人や施設等が特定される内容を除き、回答いただいたままを表記してあります。

4. 用語の定義

- 1) **居宅介護**…ヘルパーが自宅において、入浴、排せつ、食事の介護等を行います。
- 2) **重度訪問介護**…重い障害があり常に介護を必要とする人に、入浴、排せつ、食事の介護、外出の支援を行います。
- 3) **同行援護**…視覚障害により、移動に著しい困難のある人に、移動に必要な情報の提供(代筆・代読を含む)、移動の援護等の外出支援を行います。
- 4) **行動援護**…重い障害があり自己判断能力が制限されている人が行動するとき、危険を回避するための必要な支援や外出時の支援を行います。
- 5) **重度障害者等包括支援**…重い障害があり介護の必要性が高い人に、居宅介護等の複数の必要なサービスを組み合わせる支援を行います。
- 6) **短期入所(ショートステイ)**…介護する人の病気のときなどに、短期間、夜間も含め施設において、入浴、排せつ、食事の介護等を行います。
- 7) **療養介護**…医療と常に介護を必要とする人に、医療機関において機能訓練、

- 療養上の管理、看護、介護や日常生活の支援を行います。
- 8) 生活介護…常に介護を必要とする人に、入浴、排せつ、食事の介護等を行い、創作的活動又は生産活動の機会を提供します。
 - 9) 施設入所支援…施設に入所する人に、夜間や休日、入浴、排せつ、食事の介護等を行います。
 - 10) 共同生活介護（ケアホーム）…障害のある人たちが、夜間や休日、共同生活を行う住居において、入浴、排せつ、食事の介護等を行います。
 - 11) 自立訓練（機能訓練・生活訓練）…自立した日常生活又は社会生活ができるよう、一定期間、身体機能又は生活能力の向上のために必要な訓練を行います。
 - 12) 就労移行支援…一般企業等への就労を希望する人に、一定期間、就労に必要な知識及び能力向上のために訓練を行います。
 - 13) 就労継続支援（A型・B型）…一般企業等への就労が困難な人に、働く場を提供するとともに、知識及び能力向上のために必要な訓練を行います。
 - 14) 共同生活援助（グループホーム）…障害のある人たちが、夜間や休日、共同生活を行う住居において、相談や日常生活上の支援を行います。
 - 15) 児童発達支援…障害のある子どもが施設に通い、日常生活における基本的動作の指導、独立自活に必要な知識技能の付与または集団生活への適応のための訓練を行います。
 - 16) 放課後等デイサービス…学校就学中の障害のある子どもに対して、放課後や夏休み等の長期休暇中において、生活能力向上のための訓練等を継続的に提供します。
 - 17) 保育所等訪問支援…保育所等に通う障害のある子どもに対して、保育所等における集団生活の適応のための専門的な支援を行う者が、保育所等の施設に訪問にして支援を提供します。
 - 18) 意思疎通支援事業…聴覚、言語機能、音声機能、視覚等の障害のため、意思疎通を図ることに支障がある人とその他の人の意思疎通を仲介するために、手話通訳や要約筆記、点訳等を行う者の派遣等を行います。
 - 19) 日常生活用具給付等事業…重い障害のある人等に対し、自立生活支援用具等日常生活用具の給付又は貸与を行います。
 - 20) 移動支援…屋外での移動が困難な障害のある人に、外出支援を行います。
 - 21) 地域活動支援センター…障害のある人に、創作的活動、生産活動の機会を提供します。
 - 23) 訪問入浴サービス事業…重い身体障害のある人に対し、訪問により居宅において入浴サービスを提供します。
 - 24) 日中一時支援事業…障害のある人の家族の就労支援や日常的に介護している家族の一時的な休息を目的に障害のある人の日中活動の場を提供します。

5. 現在の制度

【現在の主な障害福祉サービス等】

区分	サービス名等
訪問系	居宅介護、重度訪問介護、行動援護、同行援護など
日中活動系	生活介護、短期入所、療養介護、自立訓練（機能訓練・生活訓練）
居住系	共同生活援助（※）、施設入所支援
就労系	就労移行支援、就労継続支援A型（雇用型）、就労継続支援B型（非雇用型）
障害児系	児童発達支援、放課後等デイサービス、保育所等訪問支援
相談支援系	特定相談支援・障害児相談支援、地域移行支援、地域定着支援
地域生活 支援	理解促進研修・啓発事業、自発的活動支援事業、基幹相談支援センター事業、成年後見制度利用支援事業、意思疎通支援事業、日常生活用具給付等事業、移動支援、地域活動支援センター、日中一時支援、訪問入浴サービス、社会参加支援事業、点字・声の広報等発行事業、自動車運転免許取得・自動車改造助成事業など

※制度改正により、平成26年度より共同生活介護（ケアホーム）は共同生活援助（グループホーム）に一元化されました。

支援団体用アンケート報告

報告 1 団体の状況について

問 1 お答えいただくのは、どなたですか。(〇は1つだけ)

アンケート類型

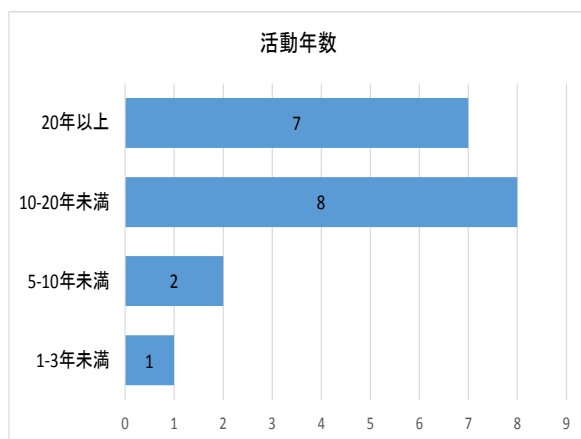
	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
支援団体用	18	8.1	8.1	100.0
事業所用	204	91.9	91.9	91.9
合計	222	100.0	100.0	

(注) 事業所用アンケートデータとのクロス集計を用いる項目があるため、事業所用の回答度数も併せて表記してあります。

問 2 貴団体が活動を始めてから何年程度ですか。(〇は1つだけ)

問2活動年数

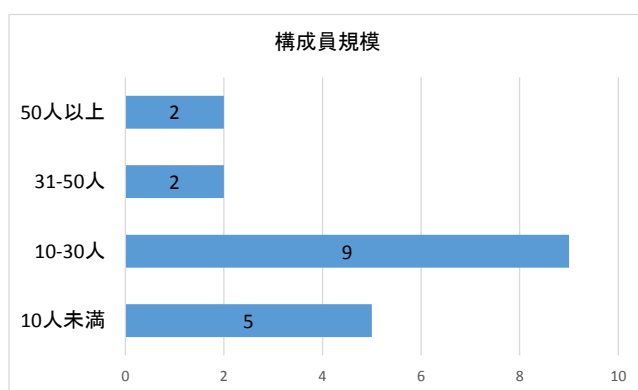
		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1～3年未満	1	0.5	5.6	5.6
	5～10年未満	2	0.9	11.1	16.7
	10～20年未満	8	3.6	44.4	61.1
	20年以上	7	3.2	38.9	100.0
	合計	18	8.1	100.0	



10年から20年未満の活動年数が最も多く、次に20年を超える活動年数という結果でした。長く活動をされている一方、新たな団体が生まれていない実態も明らかとなりました。

問3 貴団体の構成員の規模は、次のどれですか。(○は1つだけ)

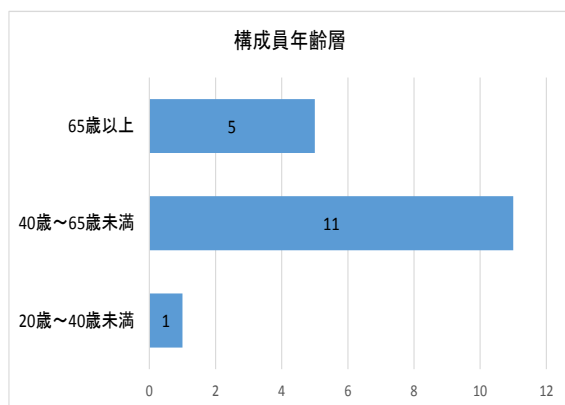
問3構成員規模					
		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	10人未満	5	2.3	27.8	27.8
	10～30人	9	4.1	50.0	77.8
	31～50人	2	0.9	11.1	88.9
	50人以上	2	0.9	11.1	100.0
	合計	18	8.1	100.0	



10人から30人と比較的小規模の団体が最も多く活動されています。

問4 貴団体の構成員の主な年齢層は、次のどれですか。(○は1つだけ)

団体の構成員の主な年齢層					
		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	20歳～40歳未満	1	0.5	5.9	5.9
	40歳～65歳未満	11	5.0	64.7	70.6
	65歳以上	5	2.3	29.4	100.0
	合計	17	7.7	100.0	



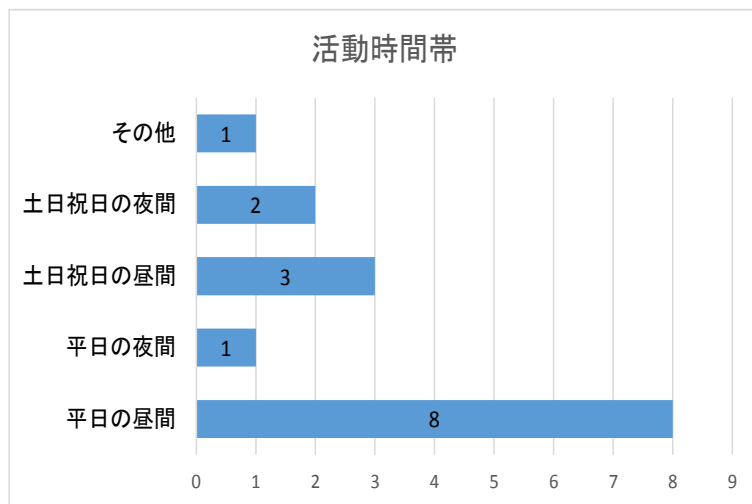
主な構成員の年齢が65歳以上の団体が約3割と構成員の高齢化が伺えます。

問2活動年数 と 団体の構成員の主な年齢層 と 問3構成員規模 のクロス表						
度数						
問3構成員規模			団体の構成員の主な年齢層			合計
			20歳～40歳未満	40歳～65歳未満	65歳以上	
10人未満	問2活動年数	1～3年未満	0	0	1	1
		5～10年未満	0	1	0	1
		10～20年未満	0	2	0	2
		20年以上	0	0	1	1
	合計		0	3	2	5
10～30人	問2活動年数	10～20年未満	0	3	2	5
		20年以上	0	4	0	4
	合計		0	7	2	9
31～50人	問2活動年数	20年以上	0	1	0	1
	合計		0	1	0	1
50人以上	問2活動年数	10～20年未満	1	0	0	1
		20年以上	0	0	1	1
	合計		1	0	1	2
合計	問2活動年数	1～3年未満	0	0	1	1
		5～10年未満	0	1	0	1
		10～20年未満	1	5	2	8
		20年以上	0	5	2	7
	合計		1	11	5	17

団体の活動年数と構成員の年齢層と構成員の規模のクロス集計から、30人以上の構成員の団体は活動年数が長く、構成員の高齢化が見られる一方、10年～20年未満の活動年数団体は唯一20歳～40歳未満の主な構成員で50人以上のもっとも大きな団体の一つである事がわかりました。

問5 貴団体が主に活動している時間帯は、次のどれですか。(〇は1つだけ)

団体が主に活動している時間帯					
		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	平日の昼間	8	3.6	53.3	53.3
	平日の夜間	1	0.5	6.7	60.0
	土日祝日の昼間	3	1.4	20.0	80.0
	土日祝日の夜間	2	0.9	13.3	93.3
	その他	1	0.5	6.7	100.0
	合計	15	6.8	100.0	

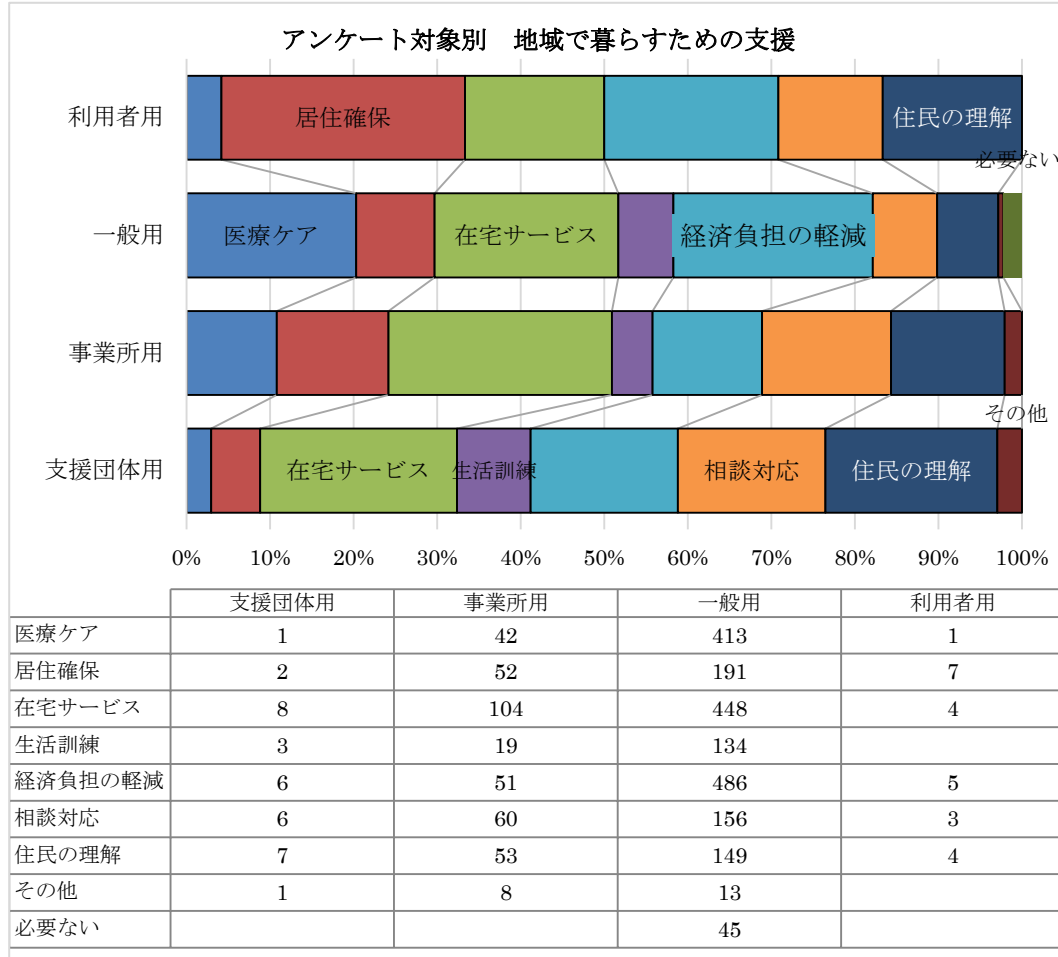


活動時間帯では、最も多かったのは平日の昼間で、次に土日祝日の昼間という結果でした。

報告2 障害のある人の支援について

問6 (事業所用 問4) あなたは、障害のある人が地域で生活するためには、どのような支援があればよいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

(利用者・一般用アンケート結果をあわせて表記します)

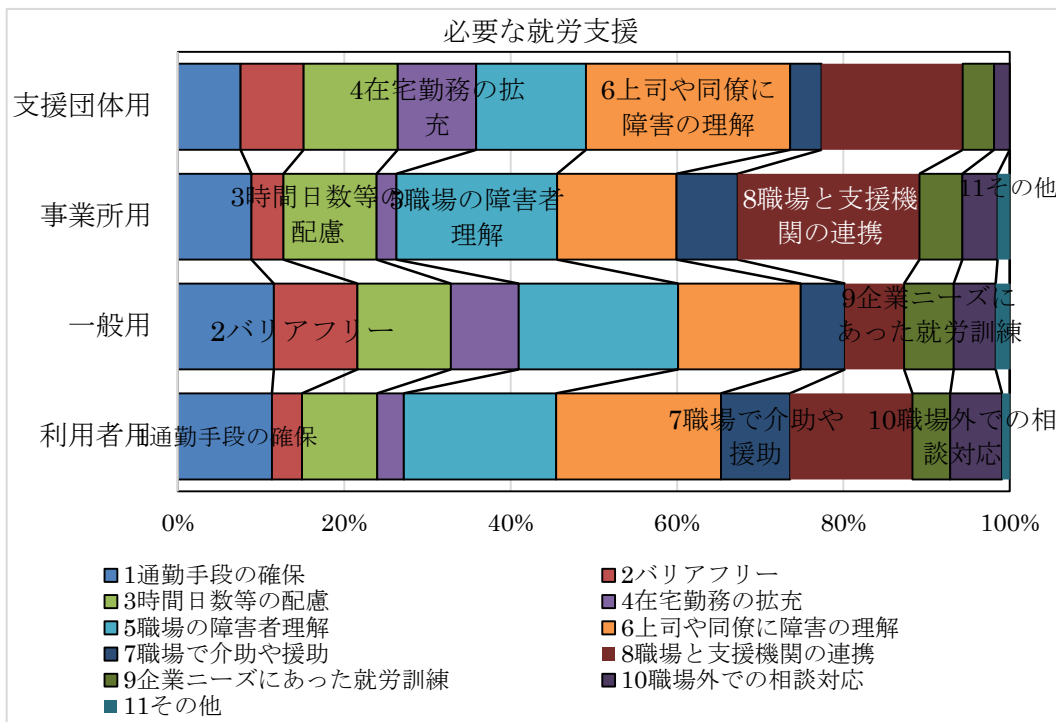


利用者・一般用アンケート結果をあわせてみると、アンケートの対象別によって地域で暮らすための必要な支援の回答に違いのある事が伺えます。

問7 (事業所用 問5) あなたは、障害者の就労支援として、どのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○) (利用者・一般用アンケート結果をあわせて表記します)

多重回答障害者の就労支援	アンケート類型				合計
	利用者用	一般用	事業所用	支援団体用	
1通勤手段の確保	60	221	48	4	333
2バリアフリー	19	193	21	4	237
3時間日数等の配慮	48	215	61	6	330
4在宅勤務の拡充	17	157	13	5	192
5職場の障害者理解	97	367	105	7	576
6上司や同僚に障害の理解	105	283	78	13	479
7職場で介助や援助	44	102	40	2	188
8職場と支援機関の連携	78	136	119	9	342
9企業ニーズにあった就労訓練	24	115	28	2	169
10職場外での相談対応	33	96	23	1	153
11その他	5	33	8	0	46
合計	191	722	192	18	1123

パーセンテージと合計は応答者数を基に計算されます。



利用者・一般用アンケート結果をあわせてみると、アンケートの対象別によって就労のための必要な支援の回答に違いのある事が伺えます。

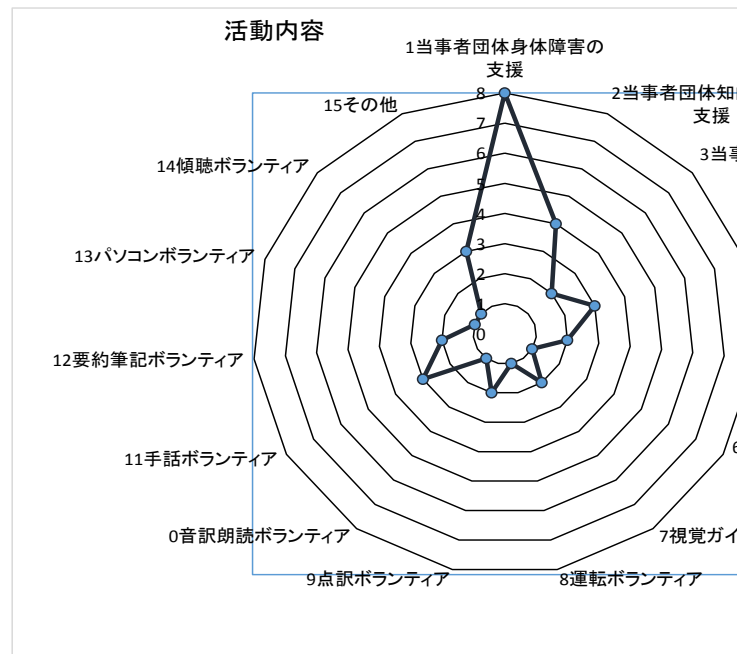
報告3 団体の活動内容について

問8 貴団体が行っている活動支援は、次のどれですか。(あてはまるものすべてに○)

問8活動内容	応答数		ケースのパーセント
	N	パーセント	
1当事者団体身体障害の支援	8	22.2%	44.4%
2当事者団体知的障害の支援	4	11.1%	22.2%
3当事者団体精神障害の支援	2	5.6%	11.1%
4当事者団体発達障害の支援	3	8.3%	16.7%
5当事者団体障害児の支援	2	5.6%	11.1%
6当事者団体その他の支援	1	2.8%	5.6%
7視覚ガイドボランティア	2	5.6%	11.1%
8運転ボランティア	1	2.8%	5.6%
9点訳ボランティア	2	5.6%	11.1%
0音訳朗読ボランティア	1	2.8%	5.6%
11手話ボランティア	3	8.3%	16.7%
12要約筆記ボランティア	2	5.6%	11.1%
13パソコンボランティア	1	2.8%	5.6%
14傾聴ボランティア	1	2.8%	5.6%
15その他	3	8.3%	16.7%
合計	36	100.0%	200.0%

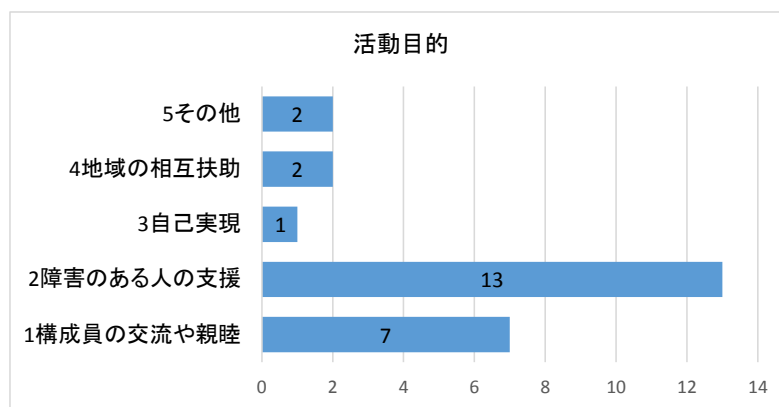
最も多い内容は当事者団体の活動でした。障害別では身体障害、知的障害、発達障害の順です。

ボランティアでは特に手話ボランティアが8.3%と高い割合を示しています。



問9 貴団体の主な活動目的は何ですか。(〇は2つまで)

支援団体問9活動目的 度数分布表			
活動目的	応答数		ケースのパーセント
	N	パーセント	
1 構成員の交流や親睦	7	28.0%	38.9%
2 障害のある人の支援	13	52.0%	72.2%
3 自己実現	1	4.0%	5.6%
4 地域の相互扶助	2	8.0%	11.1%
5 その他	2	8.0%	11.1%
合計	25	100.0%	138.9%



支援団体の活動目的は障害のある人の支援が最も多く、次に構成員の交流や親睦となっています。

問10 貴団体は、新規参加者を募集していますか。(〇は1つだけ)

会員新規募集				
		度数	有効パーセント	累積パーセント
有効	募集している	15	88.2	88.2
	募集していない	2	11.8	100.0
	合計	17	100.0	

支援団体の活動内容と構成員の年齢層と会員新規募集のクロス集計からは、40歳～65歳未満の構成員で身体障害者、知的障害者、発達障害者の支援を行っている団体が何らかの理由で募集をしていないことが分かりました。

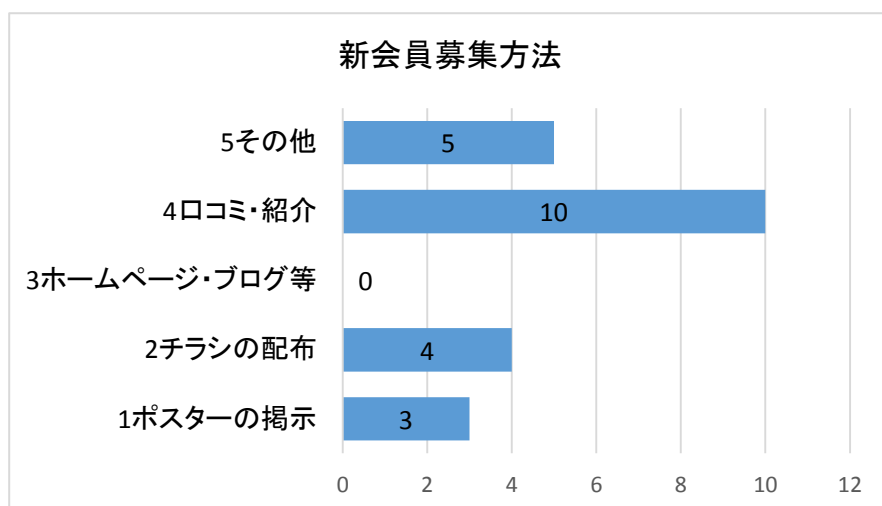
支援団体活動内容*団体間4団体の構成員の主な年齢層*団体間10会員新規募集 クロス表

会員新規募集				団体の構成員の主な年齢層			合計
				20歳～40歳未満	40歳～65歳未満	65歳以上	
募集している	支援団体活動内容	団体間8 1当事者団体身体障害の支援	度数	0	4	1	5
		団体間8 2当事者団体知的障害の支援	度数	0	0	2	2
		団体間8 3当事者団体精神障害の支援	度数	0	0	2	2
		団体間8 4当事者団体発達障害の支援	度数	0	0	1	1
		団体間8 5当事者団体障害児の支援	度数	1	0	1	2
		団体間8 6当事者団体その他の支援	度数	0	1	0	1
		団体間8 7視覚ガイドボランティア	度数	0	1	1	2
		団体間8 8運転ボランティア	度数	0	0	1	1
		団体間8 9点訳ボランティア	度数	0	2	0	2
		団体間8 10音訳朗読ボランティア	度数	0	1	0	1
		団体間8 11手話ボランティア	度数	0	2	0	2
		団体間8 12要約筆記ボランティア	度数	0	1	0	1
		団体間8 13パソコンボランティア	度数	0	1	0	1
		団体間8 14傾聴ボランティア	度数	0	0	1	1
		団体間8 15その他	度数	0	1	1	2
合計	度数	1	9	5	15		
募集していない	支援団体活動内容	団体間8 1当事者団体身体障害の支援	度数		1		1
		団体間8 2当事者団体知的障害の支援	度数		1		1
		団体間8 4当事者団体発達障害の支援	度数		1		1
		団体間8 15その他	度数		1		1
		合計	度数		1		1

パーセンテージと合計は応答者数を基に計算されます。

問11【問10で、1. と回答された方にお聞きします。】 募集している場合、どの様な募集を行っていますか。(〇は2つまで)

募集方法	応答数		ケースのパーセント
	N	パーセント	
1ポスターの掲示	3	13.6%	20.0%
2チラシの配布	4	18.2%	26.7%
3ホームページ・ブログ等	0	0.0%	0.0%
4口コミ・紹介	10	45.5%	66.7%
5その他	5	22.7%	33.3%
合計	22	100.0%	146.7%



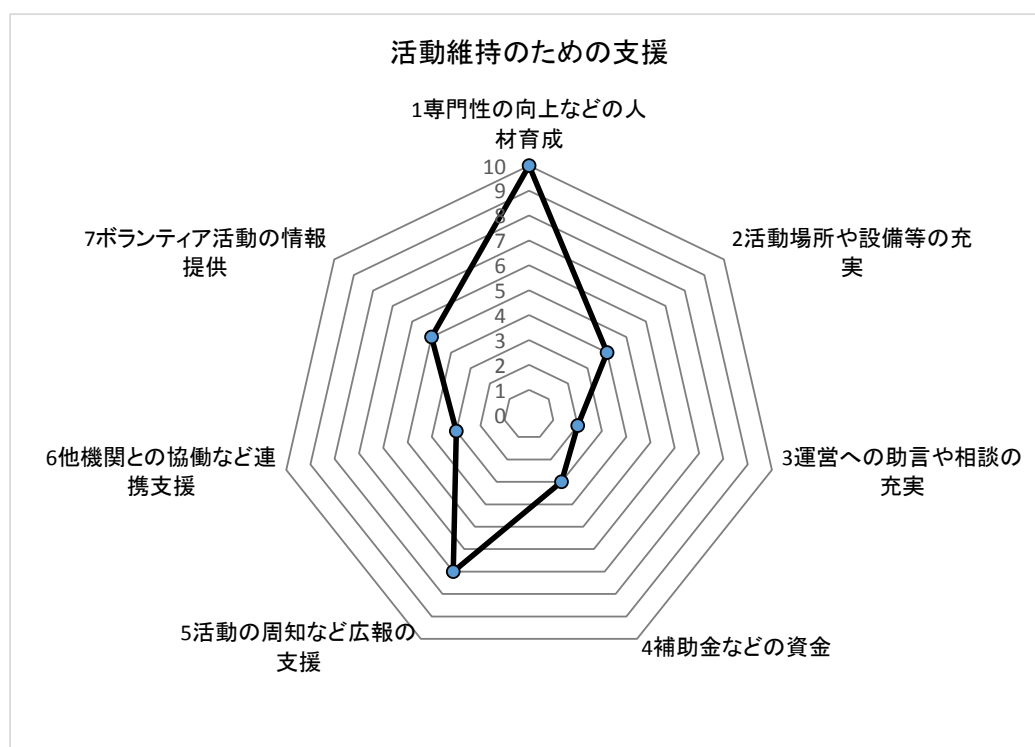
新規会員の募集方法は口コミや紹介が最も多く、その他としては以下の内容があげられました。

団体問11 その他記述

	度数
デイサービスでの紹介	1
広報への掲載	1
社会福祉協議会を通して	1
団体会員の高齢化もありますので、存続の為に若い人に入って欲しいと思っています。	1
養成講座への参加	1

問 1 2 団体の活動を継続していくための支援として、どのような内容があるとよいと思いますか。(〇は2つまで)

継続のための内容	応答数		ケースのパーセント
	N	パーセント	
1専門性の向上などの人材育成	10	29.4%	55.6%
2活動場所や設備等の充実	4	11.8%	22.2%
3運営への助言や相談の充実	2	5.9%	11.1%
4補助金などの資金	3	8.8%	16.7%
5活動の周知など広報の支援	7	20.6%	38.9%
6他機関との協働など連携支援	3	8.8%	16.7%
7ボランティア活動の情報提供	5	14.7%	27.8%
合計	34	100.0%	188.9%



活動を維持していくための支援として、専門性の向上などの人材育成が最も高く、次に活動の周知などの広報による支援が上げられています。

活動内容と継続のための支援と活動目的のクロス表は以下のとおりです。

支援団体間8活動内容と支援団体間12継続のための内容と支援団体間9活動目的 クロス表									
活動目的	活動内容	支援団体継続のための内容							合計
		1専門性の向上などの人材育成	2活動場所や設備等の充実	3運営への助言や相談の充実	4補助金などの資金	5活動周知などの広報の支援	6他機関との協働など連携支援	7ボランティア活動の情報提供	
1 構 成 員 の 交 流 や 親 睦	1当事者団体身体障害の支援	3	1	0	1	1		2	4
	2当事者団体知的障害の支援	0	0	0	1	1		0	1
	3当事者団体精神障害の支援	0	0	1	0	1		0	1
	7視覚ガイドボランティア	1	0	0	0	1		0	1
	8運転ボランティア	1	0	0	0	1		0	1
	9点訳ボランティア	1	0	0	0	1		0	1
	11手話ボランティア	2	1	0	0	0		1	2
	12要約筆記ボランティア	2	0	0	0	0		2	2
	14傾聴ボランティア	0	0	0	1	1		0	1
合計		5	1	1	1	4		2	7
2 障 害 の あ る 人 の 支 援	1当事者団体身体障害の支援	4	1	1	1	1	2	1	6
	2当事者団体知的障害の支援	1	0	1	1	1	1	0	3
	4当事者団体発達障害の支援	1	0	1	0	0	1	0	2
	5当事者団体障害児の支援	1	0	0	1	0	0	1	2
	6当事者団体その他の支援	0	0	0	0	1	0	1	1
	7視覚ガイドボランティア	0	0	0	0	1	0	1	1
	9点訳ボランティア	1	0	0	0	1	1	1	2
	10音訳朗読ボランティア	0	1	0	0	1	0	0	1
	11手話ボランティア	1	1	0	0	0	0	0	1
	12要約筆記ボランティア	1	0	0	0	0	0	1	1
	13パソコンボランティア	0	1	0	1	0	0	0	1
14傾聴ボランティア	0	0	0	1	1	0	0	1	
15その他	1	0	0	0	1	0	1	2	
合計		6	3	1	3	4	3	4	13
実 3 現 自 己	1当事者団体身体障害の支援	1						1	1
	11手話ボランティア	1						1	1
	12要約筆記ボランティア	1						1	1
合計		1						1	1
4 地 域 の 相 互 支 援	1当事者団体身体障害の支援			1	0		1	0	1
	2当事者団体知的障害の支援			1	0		1	0	1
	4当事者団体発達障害の支援			1	0		1	0	1
	5当事者団体障害児の支援			0	1		0	1	1
	合計			1	1		1	1	2
5 そ の 他	1当事者団体身体障害の支援	1	1			0			1
	2当事者団体知的障害の支援	1	0			1			1
	3当事者団体精神障害の支援	1	0			1			1
	4当事者団体発達障害の支援	1	0			1			1
	11手話ボランティア	1	1			0			1
	15その他	1	0			1			1
	合計		2	1			1		2

パーセンテージと合計は応答者数を基に計算されます。

報告4 その他障害者福祉センターなどについて

問13（事業所用 問12） あなたは、障害者福祉センター（地域生活支援センターたけのやま、子ども発達支援センターすくすく園）をご存知ですか。（○は1つだけ）
支援団体と事業所の比較をします。

アンケート類型 と障害者福祉センターの認知 のクロス表

度数

	障害者福祉センターの認知			合計
	利用したことがある	知っているが利用したことはない	知らない	
事業所用	18	73	104	195
支援団体用	11	6	1	18
合計	29	79	105	213

支援団体に比べ事業所の知らないとの回答が多いことから事業所からの認知が低いことが伺えます。

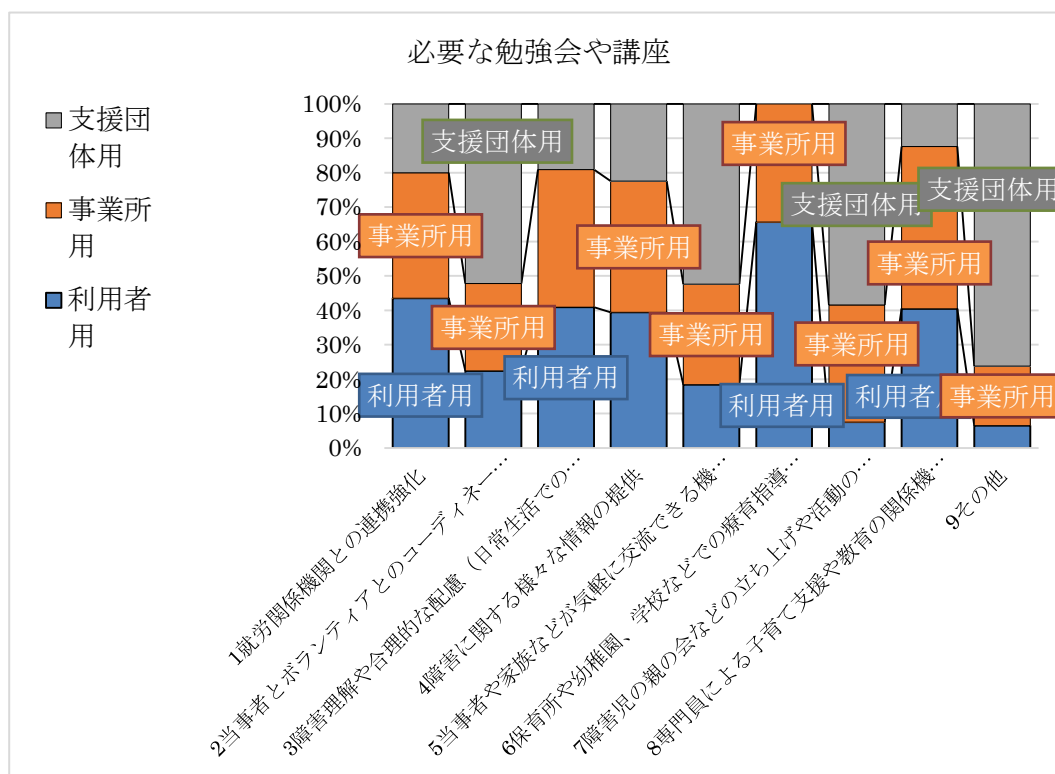
次に事業所用・利用者用・一般用アンケートの結果をあわせて表記します。
今回のアンケート全体では半数の方から認知されていない結果となりました。

障害者福祉センターの認知

		度数	パーセン ト	有効パーセ ント	累積パーセ ント
有効	利用したことがある	196	14.8	15.6	15.6
	知っているが利用し たことはない	423	31.9	33.7	49.3
	知らない	636	48.0	50.7	100.0
	合計	1255	94.6	100.0	
欠損値	システム欠損値	71	5.4		
合計		1326	100.0		

問14（事業所用 問13） あなたは、障害者福祉センターでどのような取り組みをする
 とよいと思いますか。（〇は2つまで）

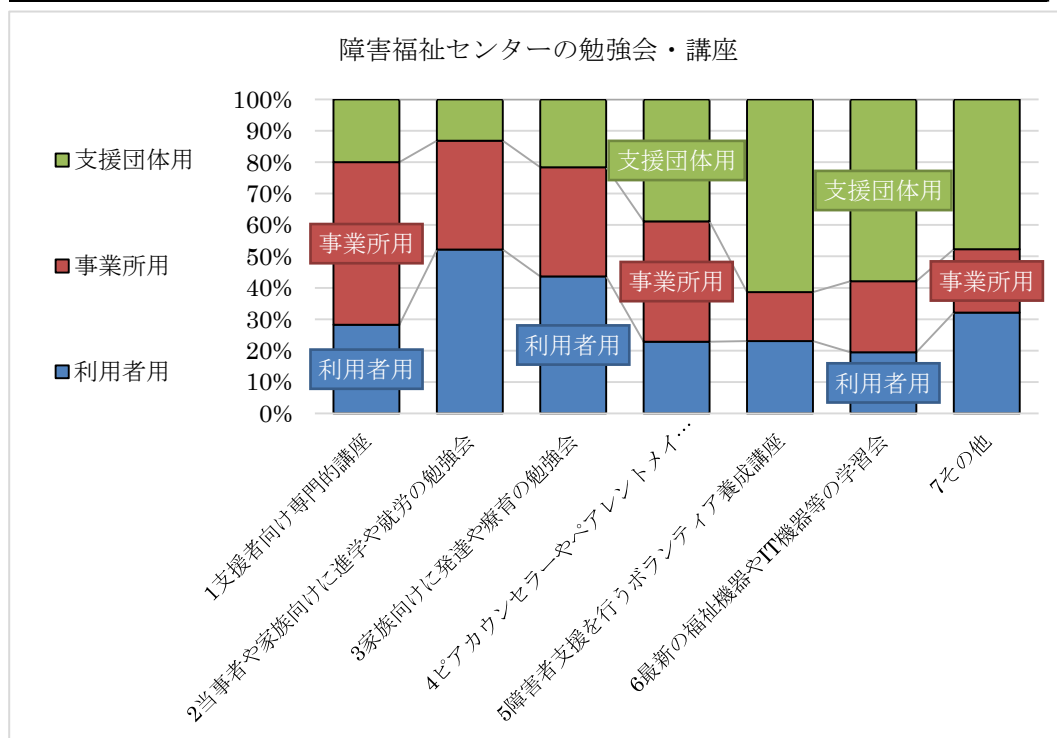
	アンケート類型			合計
	利用者用	事業所用	支援団体用	
1就労関係機関との連携強化	76	56	3	135
2当事者とボランティアとのコーディネート機能の強化	30	30	6	66
3障害理解や合理的な配慮（日常生活での心遣い）などの啓発	50	43	2	95
4障害に関する様々な情報の提供	82	70	4	156
5当事者や家族などが気軽に交流できる機会の提供	45	63	11	119
6保育所や幼稚園、学校などでの療育指導（訪問支援）の充実	52	24	0	76
7障害児の親の会などの立ち上げや活動の支援	3	12	2	17
8専門員による子育て支援や教育の関係機関との連携強化	38	39	1	78
9その他	3	7	3	13
合計	210	185	18	413



支援団体と事業所と利用者とは希望する内容に差がある事が伺えます。

問15（事業所用 問14） あなたは、障害者福祉センターの勉強会や講座などにおいて、どのような内容を開催するとよいと思いますか。（〇は2つまで）

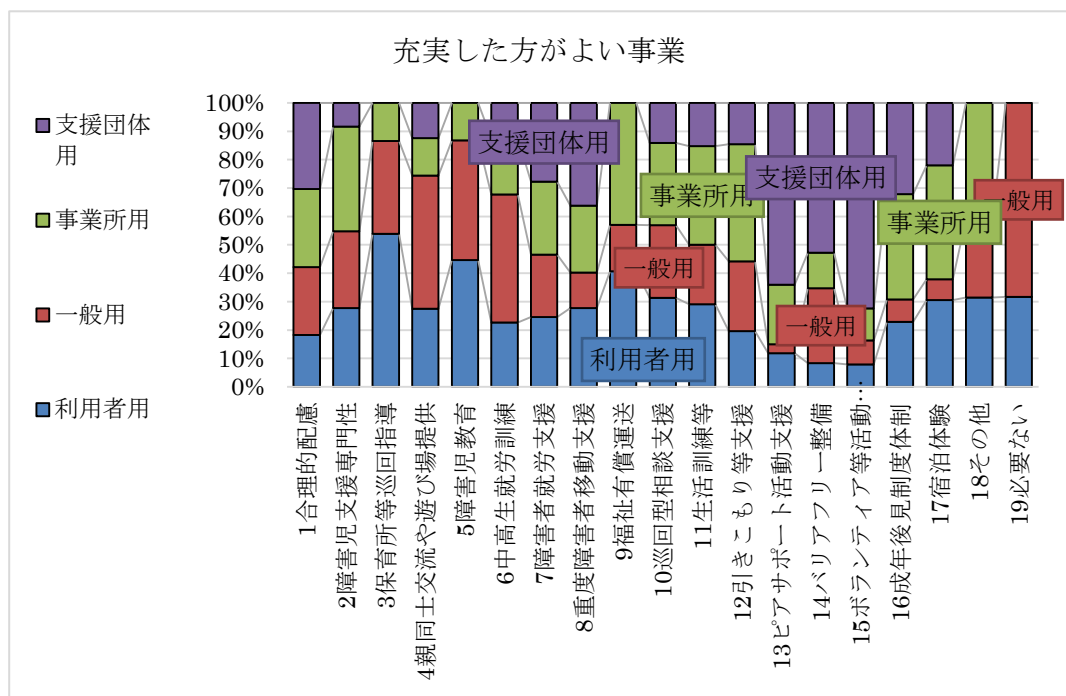
障害福祉センターの講座等全数*アンケート対象類型 クロス表				
	アンケート類型			合計
	利用者用	事業所用	支援団体用	
1 支援者向け専門的講座	67	122	4	193
2 当事者や家族向けに進学や就労の勉強会	94	62	2	158
3 家族向けに発達や療育の勉強会	72	57	3	132
4 ピアカウンセラーやペアレントメイト養成講座	21	35	3	59
5 障害者支援を行うボランティア養成講座	49	33	11	93
6 最新の福祉機器やIT機器等の学習会	20	23	5	48
7 その他	8	5	1	14
合計	190	189	16	395



ここでも支援団体と事業所と利用者とは希望する内容に差がある事が伺えます。

問16（事業所用 問15）あなたは、今後、既存事業を見直しする場合、障害のある人に対して、次に掲げる中でどの様な支援を充実した方がよいと思いますか。（〇は3つまで）

	アンケート類型				合計
	利用者用	一般用	事業所用	支援団体用	
1合理的配慮	53	225	71	7	356
2障害児支援専門性	42	133	50	1	226
3保育所等巡回指導	27	53	6	0	86
4親同士交流や遊び場提供	28	155	12	1	196
5障害児教育	68	208	18	0	294
6中高生就労訓練	46	297	36	2	381
7障害者就労支援	78	227	73	7	385
8重度障害者移動支援	29	42	22	3	96
9福祉有償運送	17	22	16	0	55
10巡回型相談支援	28	74	23	1	126
11生活訓練等	48	112	51	2	213
12引きこもり等支援	17	69	32	1	119
13ピアサポート活動支援	7	6	11	3	27
14バリアフリー整備	6	61	8	3	78
15ボランティア等活動支援	11	38	14	8	71
16成年後見制度体制	18	20	26	2	66
17宿泊体験	35	27	41	2	105
18その他	6	17	7	0	30
19必要ない	1	7	0	0	8
合計	214	694	191	17	1116



支援団体用と事業所用と一般用と利用者用を比較すると充実希望の内容に差がある事が伺えます。



第4期日進市障害福祉計画アンケート調査報告書

平成26年7月

【制作】 相山女学園大学 人間関係学部人間関係学科 手嶋雅史